

【中学校国語】（※「上回っている」とは、全国平均に比べ+3.1ポイント以上）

本校の概要

【区分及び領域】

主として「知識」に関する
問題（A）

- 「話すこと・聞くこと」
・全国平均に比べ、上回っている。
- 「書くこと」
・全国平均に比べ、上回っている。
- 「読むこと」
・全国平均に比べ、上回っている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
・全国平均に比べ、上回っている。

主として「活用」に関する
問題（B）

- 「話すこと・聞くこと」
・全国平均に比べ、上回っている。
- 「書くこと」
・全国平均に比べ、上回っている。
- 「読むこと」
・全国平均に比べ、上回っている。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
・全国平均に比べ、上回っている。

今回の調査における課題

- 歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む。
- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。
- 各区分及び領域において正答率は高く、本校の課題探究的な学習をさらに進めていくことが必要である。

改善の方向

- 文語のきまりについては、言葉の意味を考えながら音読したり、音読を聞いたりすることを通して古典特有のリズムを味わいながら理解するような学習場面の工夫を図る。
- 文章の構成や展開を捉えて内容を理解し、論理的に記述するような学習場面の工夫を図る。
- 現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

IBを活用した課題探究的な学習の効果

- ・課題探究的な手法を通して、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うなど、基礎的な知識においても定着が見られる。
- ・記述式問題に対する無解答がなかった。国語科に限らず、各教科において書くことが重視されており、記述に対して意欲的に取り組んでいる。

【中学校数学】（※「上回っている」とは、全国平均に比べ+3.1ポイント以上）

本校の概要

今回の調査における課題

改善の方向

【区分及び領域】

主として「知識」に関する問題（A）

□「数と式」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「図形」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「関数」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「資料の活用」

・全国平均に比べ、上回っている。

主として「活用」に関する問題（B）

□「数と式」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「図形」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「関数」

・全国平均に比べ、上回っている。

□「資料の活用」

・全国平均に比べ、上回っている。

●歩いた道のりと、残りの道のりの関係について、正しい記述を選ぶ。

●与えられた資料から中央値を求めることができる。

●各区分及び領域において正答率は高く、本校の課題探究的な学習をさらに進めていくことが必要である。

○具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べることを通して、2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断することができるような学習活動の工夫を図る。

○目的に応じて資料を整理し、資料の中で最も多く出てくる値である最頻値を表やグラフから読み取る学習場面の工夫を図る。

○中等教育学校の特色を活かし、6年間の連続的な学びを行っており、中学校と指導計画が異なっている。現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

I Bを活用した課題探究的な学習の効果

・本校の授業内容を考慮すると、「活用」に視点を当てた授業が効果的に「知識」の習得につながっていると考える。従来の「習得→活用」ではなく、「活用→習得」のプロセスを取り入れたことによって、主体的な学習活動の実現ができています。

【中学校理科】（※「上回っている」とは、全国平均に比べ+3.1ポイント以上）

本校の概要

【区分及び領域】

第1分野 物理的領域

・全国平均に比べ、上回っている。

第1分野 化学的領域

・全国平均に比べ、上回っている。

第2分野 生物的領域

・全国平均に比べ、上回っている。

第2分野 地学的領域

・全国平均に比べ、上回っている。

今回の調査における課題

●電流計は回路に直列に接続するという技術及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている。

●オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる。

●アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている。

●無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる。

●神経系の働きについての知識を身に付けている。

●各分野において正答率は高く、本校の課題探究的な学習をさらに進めていくことが必要である。

改善の方向

○小学校で学習した回路の知識・技能を活用して、電流や電圧を測定したり、回路図に表したりする学習活動の工夫を図る。

○物質やその変化を記述したり理解したりするために世界共通の原子の記号を用いることは有効であることに気付く学習活動の工夫を図る。

○脊椎動物の特徴と比較しながら節足動物と軟体動物を観察し、共通点と相違点を見いだすような学習活動の工夫を図る。

○外界からの刺激が受け入れられ、感覚神経、中枢神経、運動神経を介して反応が起こることを、観察・実験や日常の経験などを通して理解するような学習活動の工夫を図る。

○現行の取組を継続し、さらに発展させていく。

I Bを活用した課題探究的な学習の効果

・自然の事物・現象から問題を見いだして課題を設定する学習活動が充実している。

・自分の考えをもち、自分や他者の考えを検討して改善する学習活動が充実している。